

富山第一高等学校

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- 校訓の「剛健」「練体磨心」を基本理念に、知・徳・体、調和のとれた人材を育てる
- (ア) 心身ともに強く健康で、学力・品格ともに備わった人材を育成する
 - (イ) 課外活動を含め学校生活を通じて社会性と豊かな人間性を育む
 - (ウ) 生徒個々の能力・適性に意を用いた指導を行い、目指す進路を実現する

2 学校の特色

生徒数は1,200名を超え、県下最大規模の全日制普通科高校である。1959（昭和34）年に開校、卒業生は3万4千名を超え、各界各層で活躍している。「総合コース」「美術コース」「特別進学コース」に加え、令和元年度から「S特別進学コース」を設置した。多様な生徒が在籍しており、生徒の適性と希望進路に応じた特色ある教育を行っている。文武両道を標榜し、進学、部活動ともに実績を積み重ねている。

3 学校の現状と課題

部活動に熱心に打ち込む生徒が多く、複数の運動部が例年全国大会に出場している。文化部にも全国を舞台とする大会やコンクールで多くの生徒が入選・入賞している。部活動は活発で、学校全体に活気がある。

9割前後の生徒が毎年進学するが、自学自習への主体的な取り組みは十分とは言えない。学習習慣の定着と学力の一層の向上は継続した課題である。例年1割程度の生徒が就職を目指し、内定率は100%を維持している。

生徒が学力、体力、道徳、社会性を身に付け、調和のとれた有為の人材として社会に貢献できるよう、生活指導を基本にきめ細かな指導を心掛けている。

令和3年度入学生からは、1人1台端末を持たせており、今年度から全校生徒が自身の端末を持つことになる。学校と家庭との連絡や、授業でのICT活用に取り組んでいる。

4 学校教育計画(アクションプラン)

重点1 学習活動（教務部）

目 標	①ICTを積極的に授業で活用する ②本校の実態に即した評価方法の構築
方 策	①クラスルームを積極的に活用するように、教科主任を通して啓発 ②教務会議を通して、年間を通じて議論するとともに、他校の事例等の情報収集を行い、本校の実態に即した評価法を構築

重点2 学校生活（第1学年）

目 標	高校生活の土台としての学習習慣と基本的生活習慣の確立
方 策	①総合的な探究の時間での活動を軸とした生徒の主体的な学びの機会の提供 ②授業を大事にさせる指導 ③担任による朝のショートホームルームでの生徒への声かけの徹底 ④学年主任・副担任による朝のショートホームルーム時の巡視 ⑤あいさつ、服装指導を全教員で徹底する ⑥個別面談、個別指導の充実

重点3 探究活動（第2学年）

目 標	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
方 策	①外部と連携し、社会課題を多面的に深く学び、思考する力を養う ②仲間との探究活動を通して、主体性や協働性を高め、自らの意思を伝達できる力（コミュニケーション力）を身につけさせる ③探究活動の発表の場を設け、成果をまとめて発表する力（表現力）を養う

重点4 生徒指導（生徒指導部）

目 標	①公共交通機関利用マナーの向上及び自転車運転ルールの徹底 ②すすんであいさつができる生徒の育成 ③教育目的を達成するために必要かつ合理的範囲内において学校が校則を運用できているか、校則の内容が生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識、時代の進展などを踏まえたものになっているかなどの観点から見直しをはかれるようガイドラインを作成する
方 策	①校前指導を毎朝行う ②「さわやか運動」などであいさつや声掛け、乗車マナー指導を行う ③交通安全や乗車マナーに関して、学年集会・「学年通信」・S.T.などを通して具体的な例をあげて呼びかける ④交通安全指導の日（毎月1日・15日）に、通学路に出向き指導を行う ⑤校則見直しの際には、生徒が話し合う機会を設け、生徒が何らかの形で参加できるよう留意するとともに、校則に関する教員研修なども企画する

重点5 生徒会活動・特別活動（生徒会部活動振興部）

目 標	委員会活動や学校行事、ボランティア活動等を通して、主体的に活動できる生徒を育成する
方 策	①委員会活動において、委員主体で計画立案や役割分担について話し合い、実践させる ②文化祭や体育大会など学校行事の事前活動において、生徒が見通しを持って主体的に活動できるよう支援する

	③ボランティア活動についての情報発信を充実させる ④部活動加入を促し、人間関係形成や自己実現を図ろうとする態度を育てる
--	--

重点6 保健指導（保健部）

目 標	①生命を尊重し、生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒を育成する ②感染症予防対策の実践力を高める ③学内の衛生環境の改善
方 策	①保健の授業で応急処置や心肺蘇生法を習得させる ②総合的な探究の時間に消防署職員を招き、救命講習を受講させる（対象は1年生） ③総合的な探究の時間に、医師による性教育・LGBT・がん教育講演会を受講させる(対象は1年生) ④毎朝の健康観察、保健の授業、「保健室だより」の配信等を通して感染症予防や健康管理の意義を学ばせる ⑤保健主事を中心に学内の環境衛生の向上に努める ⑥保健委員会（第3者を入れた委員会）を企画・実施する

重点7 進路支援（進学指導部）

目 標	①入試改革に伴う新しい入試制度及び大学入学共通テストの分析、特に令和7年度入試より新しく導入される「情報」についての情報収集と指導方法を検討し、生徒の進路志望に合った有効で実践的な情報提供を行い、進路目標実現へ向けた適切な指導を行う ②動画配信等オンラインによる教材を利用し、生徒の基礎学力の向上を図り、進路目標の実現に近づくよう指導する ③入試に関する変更点等の情報をいち早く提供することで、教員間、特に3学年の担任と共有し、生徒が不安なく受験できる環境を整えることができるように努める
方 策	①大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し、各学年の担任に校内LANを活用して適宜配信し、情報の共有を図る ②各種学校や業者から送付されてきた資料について、校内LANを活用し、担任を通じて生徒に配布できる環境を整える ③各学年の特性に応じた適切な情報を配信する 1 学年：2年次に選択する文系・理系の情報に加え、1年次から受験を意識できるような情報の提供 2 学年：各種学校の設置する学問分野の情報だけではなく、入試制度に関する情報の提供 3 学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度の状況に関する情報の提供 ④生徒の進路志望調査をもとに、複数の教員が共通理解を持ち、進路実現に

	<p>つながる指導を行う</p> <p>⑤動画配信を利用した大学の講義を見たり、大学の教員と直接話したりすることによって、志望進路の具体化につなげる</p> <p>⑥受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し、情報提供や機材の貸し出し等を行う</p>
--	--

重点8 情報発信（総務部）

目 標	<p>①在校生とその保護者に向けた情報を迅速に発信し、本校の教育への理解と協力を得て、信頼関係を深める</p> <p>②受験生とその保護者に向けて、本校の特色や魅力を積極的に発信し、生徒募集活動を一層推進する</p> <p>③出願から入学手続きまでの入試業務を見直し、効率化を図る</p>
方 策	<p>①日頃の授業や行事等の活動内容を適切な手段で適宜発信する</p> <p>②受験生やその保護者に対して、広報活動を充実させる</p> <p>③昨年度から導入したインターネット出願システム（miraicompass）を改良する</p>